



たとえ時代は離れていても、こころは近づける。
そんな気持ちになりました。

いつかまた
ここで...



楠葉けい子(大学生)
鳥彌三



おけいはんの(新)発見

おけいはん、龍馬に出会う!

ゆかりの地の数だけ、
龍馬に会える街へ。
京阪電車に乗って。

【伏見】

月桂冠大倉記念館 十石舟

長建寺 寺田屋

竜馬通り商店街

薩摩島津伏見屋敷跡

【東山】

京大和 明保野亭 霊山歴史館

京都霊山護国神社

坂本龍馬中岡慎太郎像

【洛中】

坂本龍馬中岡慎太郎遭難之地

酢屋 鳥彌三 長州屋敷址

池田屋騒動之址

武市瑞山寓居之跡

【大阪】

八軒家浜船着場 大阪城

土佐稲荷神社

【天津】

三井寺 菱屋町商店街

京阪沿線

坂本龍馬をめぐる旅

スタンラリー

龍馬ゆかりの地にある京阪電車の5駅

(天満橋駅、中書島駅、

丹波橋駅、祇園四条駅、

三条駅)のなかから、

3駅以上のスタンラリー

を集めた方にもれなく

「平成の京阪大鳥瞰図小屏風」

をプレゼント!



H22
12/23
まで

龍馬めぐりの情報は
おけいはん 検索
www.okeihan.net

おけいはん
京阪の人、
おけいはん。



月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.29 2010 12/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

釈 徹宗×高島幸次

「大阪の神さん、仏さん」

Part.1〈神さん編〉

申し込み受付中!

中之島に光を灯す人々。

中之島に 光を灯す人々。



「主役は街、そして何より人。
お客さんの表情やささめきで
光の美しさや感動は
違ってくるんですよ」

街や人への想いを
光に託すプロデューサー。

株式会社カクタス 代表取締役
岡智恵子さん

まだ残暑厳しい夏の終わりから、岡智恵子さんの仕事は始まる。「30度を超す中で、冷たく澄んだ冬の夜を思い描くのは大変ですけど（笑）。イルミネーションはただ光っているだけではない。毎年テーマがあり、それを伝えるストーリー、演出、音楽がある。いわば「作品」のコンセプトを総合的に提示するのがプロデューサーである岡さんの役目。今年のウォールタペストリーなら「めぐり逢うときのために」がテーマとなる。

「絵よりもまず、何を伝えたいかを考えますね。人との出会いへの感謝、生まれてきたことや生きていることを大切に思う気持ち…。人には見せませんが、エッセイを書いたり、何百曲もCDを聴き込んだりして。部屋にこもって孤独な作業です」

仲間と会社を立ち上げ、舞台やイベントの演出をしていた8年前、「光のまちづくりに手を貸してほしい」と声がかかった。中之島の市役所周辺でイベントをするというので現場を見に行ったが、暗く汚く、川も見えない。「まだ遊歩道も整備されてなくて、歩くの

This is my work 中之島イルミネーション ストリート

市役所の南、全長150mのプロムナードを覆う41本のケヤキに、色とりどりの光の花が咲き、雪の結晶を飾ったアーチが設けられる。ウォールタペストリーとともに、第1回目からイベントの顔となっている。11日以降は、音楽に合わせて踊るように点滅する。点灯時間は5:00PM～10:00PM



が怖いような場所でした」。ただ、四季を映すケヤキ並木の美しさは印象的だった。葉を落とした木々に、光の花や雪の結晶をあしらうイルミネーションストリートのイメージは、そこから膨らませていった。

「でも、光が個性を主張し過ぎてはいけない。主役はあくまで街であり、見に来る人たち。中之島を歩き、会話を交わし、また来たいと願う。そんな場をつくりたいと思っています」



4チャンネルのMDレコーダーやミキサーを駆使して、選曲から、曲出しのタイミング、光とのシンクロまで緻密に構成し、シートを作っていく。反対側の壁にはCDがぎっしりの棚。

今や冬の名物となった「OSAKA光のルネサンス2010」が、
いよいよ今月から始まった。目にも鮮やかなイルミネーション、
だが、その陰にはさまざまな人たちの苦心の跡が隠されているのだ。

取材文／大迫力 金哲志 松本創（以上本誌）
特集取材協力／OSAKA光のルネサンス実行委員会
※イベントの概要はP5にあり
水都大阪光のまちづくり企画推進委員会

当たり前のことだけれど、光を生み出す電飾の一つ一つも職人の手によって取り付けられている。光のルネサンスの設置工事に第1回目から関わる久禮保英さんも、そんな技術者の一人だ。今年も中央公会堂前エリアの樹木にLEDライトを取り付け、シャンパンガラスのように見える工事のほか（左下写真）、京阪電車中之島駅で行われる「nakanoshima RIVER WAVE」の設置工事も担当している。

このイベントは、中之島線開業を記念して、一昨年から始まった。すぐに川が流れていることから、イメージは「水中の駅」。コンコース内の壁

面に、水を表す青と波を表す白のLEDを、およそ12000個、長さ80mに亘ってちりばめ、見事に水中世界が表現された。「この時が初めてだと聞いてましたから、『これは失敗できない』と思いましたね」。

現場で作業する人間として、一番苦労するのは天候であるという。「屋外の現場だと、雨が降るとどうしても作業員の注意力が鈍る。通行

人の方も多いですし、やはり気を使います」。何気ないことのように

にも聞こえるが、それだけ切実なのだ。久禮さんも、「国内ではなかなかない」と言う大規模なイベントであるだけに、こうした細かい気づかいが大事になってくる。

ルネサンスの期間中、時間があれば自分が関わった現場以外のイベントも見て歩くという。どうしても「同業者目線」で見えてしまったために、「ついつい見積もってしまうんです（笑）」という話も、現場の人らしい。

光の祭典の現場を支える職人。

新光企画株式会社 大阪営業所 所長
久禮保英さん

中央公会堂前では、樹木がLEDによって細長いシャンパンガラスに変身。



昨年も多くの人を魅了した中之島駅のイルミネーションコンコース。「たくさんの人が見に来てくださり、乗客も増えたと聞いたときはほんとにしました」と久禮さん。



This is my work nakanoshima RIVER WAVE

京阪電車中之島駅のコンコースが、水中をイメージした光のトンネルに。今年はさらにバージョンアップし、雪の結晶をイメージした装飾が加わり、昨年以上に幻想的な世界を作り出すうだ。点灯時間は5:00PM～9:30PM



「人やクルマの通行、そして天候。現場での作業には、やはり気を使います」



去る9月18日には、なにわ八百八橋「橋洗い」実行委員会による、橋をきれいにするイベントも行われた。地元の市民を中心に約250名が参加し、デッキブラシやたわしで橋の汚れを落とした。どおりでライトアップが映えるわけだ！

「中之島の橋はそれぞれに異なる特徴がある。それを活かし、橋の存在感を高めることを常に考えます。橋を造られた方がどこに力点を置いたのかも意識しますね」。現場での実践により、「どこから見てもらうのか」というポイントを探りながら、調整を重ねていく。橋と言っても人が通る道路の一部

中之島には23もの橋が架かっている。そのうち4橋は常にライトアップされ、仕事帰りの島民の心を和ませる。光のルネサンス期間中には、さらに3橋が加わり、それぞれに違った演出でイベントに華を添えている。そんな橋梁ライトアップの設備設計や監督を担うのが植村さんはじめ大阪市建設局設備担当の役目。練り上げられたコンセプトに基づき、どこにどんな照明器具を使えば良いのかを検討し、実現へとつなげていく。

橋の個性を活かして 輝かせる名演出家。 大阪市建設局 道路部 設備担当課長代理 植村重治さん

であり、安全面や維持管理の容易さにも配慮が必要となる。

今年の光のルネサンスをきっかけに、新たに中之島ガーデンプリッジでのライトアップもスタートする。ポリウレムの少ないスレンダーな橋であるため、欄干にネットライトを取り付け、光のラインを作り出す。取材時は、4種類のライトを設置し、通行人にアンケートを取りどの色を採用するかを決める調査の真っ最中。「周囲が明るい中之島でのライトアップは、それに負けない演出が必要なんです。そうとは知らず喜んで写真を撮る人々を眺めながら苦心を語る植村さんの横顔は、どことなく楽しげにも見えた。



アンケートでは実験として取り付けられたピンク、赤、青、黄色の中からどれが一番ふさわしい色だと思うかを答えてもらう。関係者全員での人海戦術。12月以降、恒常的に行われるライトアップとあり慎重に検討された。



This is my work 中之島ガーデンプリッジ ライトアップ

御堂筋と四つ橋筋の中間に位置する歩行者専用橋。大江橋、阪神高速道路橋脚、堂島川南沿いの遊歩道のライトアップと合わせ、川を囲む光の360° 景観を生み出す。橋のライトアップはこのほか、天神橋、難波橋、水晶橋、大江橋、淀屋橋、錦橋でも実施。点灯は日没から10:00PMまで。



「都会でのライトアップは難しいんです。周囲に負けないよう、橋の存在感を出さなければいけない」

This is my work

ウォールタペストリー

ネオバロック様式の建物に映し出される映像と音楽が、見る者を別世界へと誘う。当初は「呼び込みをしていただくくらい」だったが、今や屈指の人気イベントとなった。演出時間は7:00PM~8:30PM(土・日・祝は6:00PM~ ※変更の場合あり)。約10分間の映像が、3分おきに上映される。



「映像と音楽と照明の融合。すべてを演出として捉えて、どう見せるかを考えます」

光の概念を変える プログラマー。

光工房チーフオペレーター

岡敦浩さん

昨年度、光のルネサンスには過去最高を大きく更新する304万人の人が訪れた。これほど多くの人の注目を集めるようになった要因を、「建物がただ光るだけではなく、光のショーが見られるからじゃないでしょうか」と、岡敦浩さんは分析する。

岡さんの職業はプログラマー。パソコンを使って、光が音や映像とシンクロするプログラムを作っていく。その代表的なものが大阪府立中之島図書館の壁面を使った「ウォールタペストリー」。重厚な建築に、色鮮やかな映像が照射されるイベントは、今や順番待ちの行列ができる人気だ。

「建物に映像をあてると言っても、スクリーンに映すようにベタッとあてるわけじゃない。映像を光の一種と捉え、建物のどの部分にどんな光(映像)を当てればショーとして成立するのかを考えていくんです」。こうした発想は岡さんが長らく舞台照明を手がけていたことによるものだろう。「最初から最後まで同じライティングの舞台ってないでしょ。人が動けば変わるし、音楽に合わせて変わる。場面によって変わってこそ、より大きな演出効果が出るんです」。

そんな岡さんの野望は尽きない。「海外のミュージシャンのコンサートでは、舞台自体を映像で作り出し、それを変化させていく。そういうものを取り入れられないかな」。楽しそうに夢を語る岡さんの姿に、今やライトアップは点いて消えるだけの時代ではないことを知る。

OSAKA 光のルネサンス 2010

開催期間 / 12月11日(土) ~ 12月25日(土)
プレビュー期間 / 12月1日(水) ~ 12月10日(金)
※プレビュー期間の点灯は「スターライト・シティ・スクエア」と「中之島イルミネーションストリート」のみ
開催時間 / 5:00PM ~ 10:00PM
(※開催時間はイベントにより変わります)
会場 / 大阪市北区中之島一帯
(大阪市庁舎前、みおつくしプロムナード周辺、大阪市中央公会堂~中之島公園(バラ園・剣先)、大阪市立科学館北側公共広場など)
詳細は<http://www.hikari-renaissance.com/>



2009

今年は
何の絵?と
気になる...



毎年さまざまな演出が見られる
光のルネサンスの中でも、つい気になってしま
う「あの光」の秘密をご紹介します。
取材・文/大迫 力(本誌)

中之島三井ビルディングの 「ビルミネーション」

ビルの窓灯りを使って表現される雪だるまや
サンタクロース、クリスマスツリーの絵柄。思
わず拍手したくなる見事さだが、一体どんな風
に行われているのだろう。実はごくシンプルな
方法で行われている。図案通りになるように、
各階の窓のブラインドを開けたり閉めたり。赤
や緑などの色は窓にカラーフィルムを貼ってい
く。これらの作業のほとんどは同ビルのスタッ
フが総出で行うそうで、なんと手作り感あふ
れるイルミネーションなのだ。

意外だったのは、毎年の絵柄は4つほどの候
補の中からビルで働く人たちの投票によって決
まるということ。「もともとはビルのテナント
さんに向けた企画として始めたんです。一番に
なった案に投票した方には抽選でプレゼントを
差し上げたりするんですよ」と三井不動産ビ
ルマネジメントの担当者。今や恒例行事となり、
ビルに入る各企業も快く協力してくれているそ
う。「家よりも長い時間を過ごす方もおられま
すから、オフィスをお貸しするだけでなく、楽
しんでもらえる場所にしたい」。ビルと働く人々
のいい関係を映す光でもあったわけだ。

2007



2008



2002年から始まり、今年で9回目。
12月24日限定で行われる。当初は白
黒だけで表現していたが、最近は色
数を増やしたり、点滅する光があった
りとどんどんレベルアップ。「淀屋橋、
渡辺橋あたりから見ていただくのが一
番きれいです」とのこと。どんな絵柄
になるかは、ビルで働く人たちにも当
日のお楽しみになっているようだ。

気になる あの光に スポットライト!

どんな
仕組みに
なってるの!? と
気になる...

Touch!



関西電力の 「タッチザライト」

関西電力本社ビルの頭頂部に斬新な照明があ
るのをご存じだろうか? 周囲の環境情報をリ
アルタイムに映し出すという照明で、毎日陽が
暮れると光り始め、吹いている風の動きを映し
出しているのだ。風が吹き寄せると白い光の列
が生まれ、風と同じ速度で壁面を移動していく。
2004年のビルの竣工時、関西電力の社員が「ビ
ルのライトアップを街の人たちにより楽しん
でもらえるように」と考え出されたものだ。

光のルネサンスに4年前から登場している
「タッチザライト」は、このリブリットと連動
したもの。会場内に設置されたミニ・リブリッ
トという装置に触ると、あら不思議、1キロほ
ど先のビルの頭頂部に自分の手と同じ影が映っ
ているではないか。実はミニ・リブリットの中
には光源と共にセンサーが内蔵されており、そ
れが無線LANによってビルへと転送されてい
る。同時にリブリット本体が感じた風のデー
タもミニ・リブリットに送られることで、手元と
遠くと同じ光景が生まれる。光を使った最新鋭
のアトラクションと言えるだろう。

タッチザライトは光のルネサンス開
催期間中ずっと、中之島公園水上劇
場南側に登場。時間は5:00PM ~
8:00PM (無料)。昨年度は6,000人
以上の人々が体験する人気コーナ
ーだった。風の動きを映すというリブリ
ットの方にもぜひ注目してほしい。



中之島の光を写すヒント。

夜景、特にイルミネーションをきれいに撮るのは難しい。ましてやコンパクトなデジカメではなおさら。

というわけで、プロのカメラマンにコツを伝授してもらいました！

取材文／大迫力(本誌)

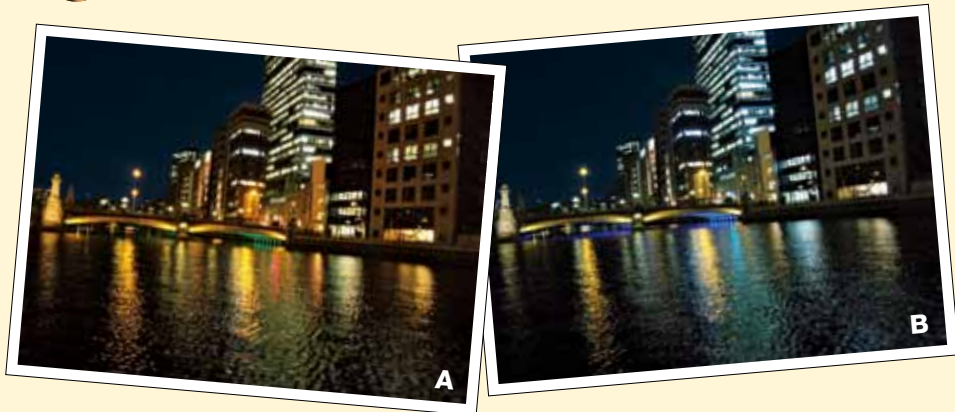
お題① 難波橋

A ホワイトバランス：自然光 ISO：400 露出補正：+1

B ホワイトバランス：電球 ISO：400 露出補正：+1



「ホワイトバランスだけでこんなに変わるんですね！ 自然光モードだと、カメラが見えている色をそのまま取り込んでくれるから、オレンジが強調されてあたたかみが出ますね。その分、橋桁の裏のグリーンが映えてるなあ」



覚えておくと夜景を撮るのが楽しくなるコツを教えます！ と言っても操作するのはフラッシュ／ホワイトバランス／ISO感度と露出補正の3つだけ。これはどんなデジカメにもあるはずですよ。



まずフラッシュはOFFにしましょう。で、ここからが肝心です。ホワイトバランスは、オレンジなどの色かぶりを消してくれます。たいていは自然光・曇り・電球などに分かれていて、これをあえて変えてみることで赤みが強いあたかい雰囲気になったり、逆に青みが強調されて幻想的に撮れたりします。これは好みなので、普段はオートで撮っている人も試してみてください。そしてISO感度。高ければ高いほど暗いところでもブレずに撮れますが、高いほど粒子が目立ちます。ですので、だいたい400を目安に設定し、露出時間を少し長くします。プラスチックはいいですね。そうすることで、光にじんで、明るい部分だけでなく暗い部分も写り、全体をきれいに写せます。



教える人／平野 愛さん
常安橋のたもとで、仲間2人と現像所兼スタジオ兼オフィス「写真とプリント社」を切り盛りするカメラマン。http://photo-print.co.jp/

学ぶ人／金 哲志
本誌編集部見習い。大学3年生。京都の今出川～出町柳のフリーマガジン『イマ×イチ』編集に奮闘するかたわら、島民の編集のお手伝いも。

お題② 大阪市中央公会堂

A ホワイトバランス：自然光 ISO：400 露出補正：+2

B ホワイトバランス：電球 ISO：400 露出補正：+2



「ホワイトバランスを電球モードにすると、カメラがオレンジの色かぶりを消そうとしますね。ライトアップが全体的にオレンジだから、建物の白や青の部分がしまって写りますね。空も少し青みがかかって上手く撮れました！」



キーマン2人に聞く 中之島 「光のまち化」 計画つて？

大阪は水の都であり、中之島はその象徴だということは、本誌でも繰り返し紹介してきた。が、そこに「光」を加えて街づくりを進めようという計画がある。キーマンとなる2人、関西電力(株)の北野剛人さん、大阪市役所の阪東正紀さんに聞いてみた。

取材文／松本創(本誌)

中之島と光の縁は意外に長い。最も古く、名高いのは天神祭だ。河岸の蔵屋敷がかり火を焚いて船渡御を迎える様子が江戸時代の図絵にある。朝日新聞ビルの屋上には戦前、飛行機の道標となる航空灯台があったという。それから市立科学館。満天の星のプラネタリウムや電気を使うサイエンスショーで来場者を楽しませていた。

職場のある北野さん。しかし、その「何もなさ」が逆に、新しい構想を動かすには良かった。「何といつても、ここは大阪のシンボルアイランドです。川面に映る光という効果も期待できましたからね」。

「特に西側はオフィスビルや倉庫中心の街で、店も以前はほとんどなかった。夜は残業の明かりがポツポツ見えるくらい。人もあまり歩いてなかったですね」と、自身も中之島3丁目に

一方の大阪市も、都市の魅力をアピールする観光コンテンツを探っていた。「春は大川の船から見る桜、夏は天神祭や大阪城の城灯りの景、秋は大阪クラシックなどの文化イベント。でも、冬の風物詩がなかった。そこで、90年代の一時に市が御堂筋イルミネーションをやっていた経験から、光のイベントはどうかという話になっていったようです」と阪東さん。



OSAKA光のルネサンス実行委員長を務める北野さん。光のまちづくりの専門家のお気に入り、中央公会堂と天神橋のライトアップ。

実はそれより前、1983年(昭和58)に市は「ライトアップ大阪計画」を策定して橋のライトアップを順次進めていた。95年には中央公会堂で「世界夜景会議」が開かれるなど、中之島に光の花が咲く萌芽はあったのだ。

2002年(平成14)、関西電力と大阪市・府、経済団体ほかで「光のまちづくり企画推進委員会」を発足。翌年12月に「OSAKA光のルネサンス」の第1回が開かれた。会場は市役所周辺と中之島公園の一部、来場者は50万人ほどだったが、大きな一歩だった。



「東横堀川の幻想」 撮影者：渋谷 豊



「煌く大川」 撮影者：稲葉太一郎

さらに次の年に「光のまちづくりグラウンドデザイン」が描かれ、イベント期間に限らず、「大阪を水と光のまちに」という機運が高まっていく。

中之島に架かる橋をはじめ、高速道路の橋脚や建築物のライトアップ。「光百景」フォトコンテスト。御堂筋のイルミネーションは大阪府が復活させ、梅田でもルネサンスの時期に光のイベントが始まる。中之島から発した光が大阪中へ広がっている。

「やさしい光は人の心を包み、癒やします。私は電力会社の人間なので、上手に光を使い、街を応援できれば」と北野さんが言えば、阪東さんは「ルネサンスは再興という意味。光で大阪が元気になるよう企業や市民のご協力をお願いしたい」。街よ、光でよみがえれ。2人の思いは一つなのである。



企業や市民に協力を呼びかけ、運営を支える阪東さん。お勤めは、公会堂正面から伸びるフランスアベニューと、今年から始まる剣先公園の芝生イルミネーション。



このページの写真は光のまちづくり企画推進委員会が行った、「光百景」アワードフォトコンテストの入賞作品の一部。同委員会によるホームページで見られ、ダウンロードしてポストカードにして楽しむこともできる。
<http://www.osaka-hikari.com/index.html>

関西・大阪 文化力会議2011

開催概要
固まる!!

ヨーロッパでは、かつて重工業で栄えた都市が文化を重点戦略に位置付け、都市再生と文化立都を競い合っています。一方、東アジアにおいては、韓国のように文化を国家の重点戦略として掲げ、力強い成長を遂げています。

グローバル化による画一化がますます進展する中で、東アジア各地域の文化の多様性こそが、新たな価値を創出し、産業競争力を高め、人々の豊かな生活に貢献する源泉です。今後のアジアの発展と安定のために、日本にもさらなる文化力の向上が求められています。

しかるに、日本の国家予算に占める文化の比率はわずか0.13%、フランスの0.86%、韓国の0.93%と比較しても極めて低く、関西においては自治体の財政難から文化予算は壊滅的な状況に追い込まれ、地域の豊かな個性が失われつつあります。

本会議では、中国の著しい成長を目前に、韓国の具体的な文化戦略も参考しつつ、国内外から多彩な文化人をお招きして、東アジアの安定と発展のために日本が選択すべき文化戦略と、関西が果たす役割を探ります。

日時／**2011年1月18日(火) 10:00~19:30**

場所／**グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 10F**

主催／財団法人 大阪21世紀協会

共催／大阪国際フォーラム

協賛／株式会社 大阪国際会議場

テーマ／「**成長する東アジアと日本の文化戦略**」

スケジュール

(1) 開会挨拶

(2) 基調講演

(3) 分科会討議

第1分科会 テーマ「東アジアと共に進む日本の文化戦略を探る」(案)

第2分科会 テーマ「関西の文化力向上と戦略的発信」(案)

(4) 合意事項採択

(5) 交流会(交流会のみ有料とさせていただきます)

お問合せ／(財)大阪21世紀協会 事業チーム／文化力グループ [担当]乾、森
TEL.06-6942-2004 FAX.06-6942-5945



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

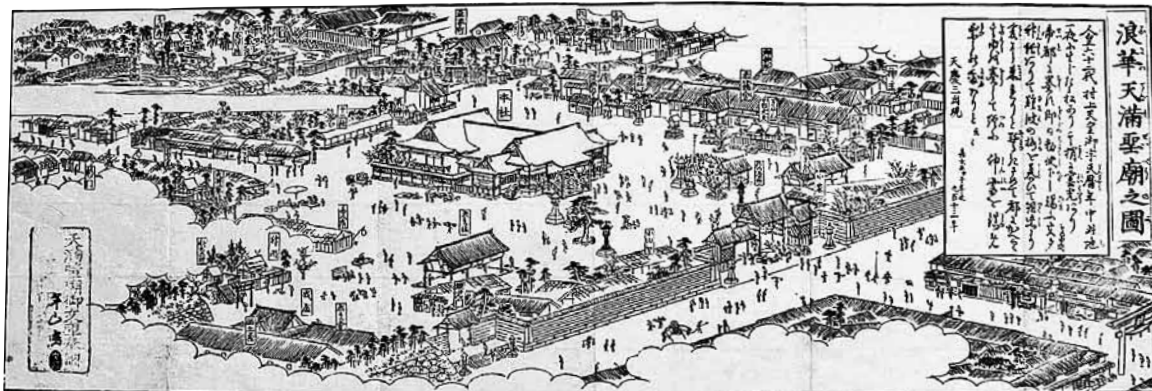
21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2011年
1月講座

連続講座「大阪の歴史をやり直す」

②宗教 大阪の神さん、仏さん Part.1〈神さん編〉

聞き手／釈 徹宗（浄土真宗本願寺派住職） ゲスト／高島幸次（大阪大学招聘教授／大阪天満宮文化研究所員）



大阪天満宮の境内が描かれた「浪花天満聖廟之図」

大阪の知られざる顔を解き明かす連続講座。
第2弾は「宗教都市」としての大阪を語り尽くす。



釈徹宗先生を聞き手に、毎回さまざまな分野のエキスパートを迎える連続講座「大阪の歴史をやり直す」。第2回は神社や寺院など大阪の街の宗教事情について語り合う。

今回のゲストは、今や「学問の神様」として有名になった大阪天満宮や、天神祭の成立・発展史研究の第一人者である

高島幸次先生。高島先生曰く「大阪天満宮にとどまらず、四天王寺や大坂本願寺、御堂さんなど、大阪にはいつの時代も街の中心に宗教施設があった。それらが大阪の街に与えた影響は大きい」。つまり大阪は「宗教都市」として捉えることもできるのだ。大阪と宗教の関係を語るにはこの上ないコンビで送る「大阪の神さん、仏さん」。新年にふさわしく、まずはその〈神社編〉をお送りしよう。

今回のやり直しサポーター
高島幸次さん



大阪大学招聘教授／大阪天満宮文化研究所員。月刊島民誌上やナカノシマ大学でもおなじみ。博覧強記を地で行く知識と、思わず吹き出す絶妙なトークから「浪花の語り部」の異名も。大阪天満宮や天神祭研究に加え、古文書などから読み解く大阪の庶民の生活史も専門。

募集要項

大阪の神さん、仏さん Part.1〈神さん編〉

聞き手／釈徹宗 ゲスト／高島幸次
日時／2011年1月24日（月）7:00PM～（開場6:30PM～）
会場／大阪倶楽部
受講料／1,500円 定員／150名
主催／ナカノシマ大学事務局
協賛／関西電力株式会社 大阪倶楽部
協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学2011年1月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）



10月29日(金)

大阪の歴史をやり直す①

「懷徳堂スーパースター列伝」

◎大阪大学中之島センター

聞き手／釈 徹宗(浄土真宗本願寺派住職)

ゲスト／湯浅邦弘(大阪大学大学院文学研究科教授)

ナカノシマ大学1周年を記念して始まった新シリーズ「大阪の歴史をやり直す」。おなじみ釈徹宗先生をナビゲーターに、さまざまな分野の専門家を迎える。その第1回目となった10月講座のお題は、淀屋橋にあった懷徳堂。本学のモデルとなった大坂の誇る学問所である。ゲストは懷徳堂研究のエキスパート、湯浅邦弘先生。2人の対話は偉人・奇才たちの業績とエピソードを軸に展開しつつ、大坂の町人学問所ならではの自由な「学びの文化」を明らかにしていった。

まずは湯浅先生が懷徳堂の歩みを概説。当時の図面から再現したCGで「縁のない畳」や「井の字型天井」の空間を疑似体験しながら湯浅先生が説いたのは「学ぶ者の貴賤や貧富を論ぜず」の精神。「町人が町人のために作った学校ですが、ビジネススクールではなく、教養や商道德を学ぶ場でした」。戦後、懷徳堂の膨大



な遺産。は中之島にあった大阪大学へ。現在も阪大図書館には「懷徳堂文庫」が残り、大学の精神的な源流と位置付けられるほど、重要な存在になっている。

では、ここに集ったのはどんな人たちだったのか。釈先生が加わり、懷徳堂の歴史を彩った七賢人、名付けて「懷徳堂セブン」について語り合った。

たとえば初代学主の三宅石庵。専門領域にこだわらず、『論語』も商人風に解釈する柔軟性で、自由な気風を築いた。湯浅先生はその背景に商都・大坂の気質



豊富な知識・資料をジェントルに語る湯浅先生。懷徳堂精神を確立した中井竹山が一番お気に入り。

を指摘する。「堂島や船場、自由貿易都市の堺。伸び伸びと商業活動を行える土地柄だったからこそ、石庵の特質が活きた。武士文化の江戸、公家文化の京都ではあり得なかった」と。釈先生も「さまざまな学問の良い所を取り入れる学際性と、旺盛な批判・批評の精神。これこそが懷徳堂の特徴だと思う」。

運営や学生指導に手腕を発揮し、最盛期を築いた中井竹山。その弟の中井履軒は人嫌いの変人ながら、古典研究から天文・医学まで膨大な研究を残した。門弟では、釈先生が思い入れる夭折の天才・富永仲基。実証・合理主義の「知の巨人」山片蟠桃…。竹山が学問の精神を書き、門柱に掲げた「連」や、早くから太陽系概念を取り入れた履軒の天体模型といったお宝も披露しながら、2人の話は、時にマニアックに、時に検証的に、懷徳堂の物語をありありと見せてくれた。

「街で学ぶ」ことの愉しさを再認識させられる、まさにナカノシマ大学の原点に立ち返った1周年講座だった。



釈先生は、ナカノシマ大学から生まれた「おせっかい教育論」にサイン。この本も懷徳堂が基調テーマ。

21世紀の懷徳堂プロジェクト

12月の時間割

ナカノシマ大学ほか、
中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。※講座の問い合わせは、それぞれのお店まで

4	土	1:00PM~ 4:00PM	「クリスマスのカード作りのワークショップ」annas／かわばたあんな(刺繍作家) 参加費:¥4,200 定員:5名(予約制) 天使の刺繍を貼付けたカード作り。天使には好きな色のお洋服を着せて、クリスマスの窓辺に飾って下さい。	会場 E
		2:30PM~ 4:30PM	「ココロも踊るブルゴーニュワイン」N.Lee(ワインコーディネイター:ボンパール江戸堀店主) 受講料:2,000円 ブルゴーニュ産ワインを4種ほど試飲しながら、ココロも踊るワインとの付き合い方をご紹介します。	会場 D
4・5	土・日	2:00PM~ 5:00PM	「カキノジ・ガリガリ絵はんこ教室」カキノジ(絵はんこ作家) 参加料:3,500円(はんこ材料費+1ドリンク) クリスマスやお正月に大活躍の絵はんこ。彫りたいものを2cm角内にデザインし、「彫る気」とご持参下さい。	会場 B
6	月	11:00AM~ 1:00PM 7:00PM~ 9:00PM	「初心者のための【陶芸教室・皿】」辻久悟(Room Room代表) 参加料:各回5,000円(食事・お茶付き、材料費込み) 日々の食卓に欠かせないお気に入りのマイプレートを作ろう。20種類の釉薬の中から色が選べます。	会場 B
		7:30PM~ 9:00PM	「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・演出家) 受講料:1500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。	会場 A
12	日	1:30PM~ 6:00PM (途中休憩有り)	「うさぎのにんぎょうをつくりましょう!」IRIIRI(にんぎょう作家) 参加費:¥3,675(お茶とおやつ付き) 定員:先着6名(予約制) お好みの布でうさぎの人形をつくります。はじめての方でも大歓迎。持ち物*糸切りハサミ(あれば)	会場 E
19	日	1:00PM~ 4:00PM	「トナカイのハンカチ作りのワークショップ」annas／かわばたあんな(刺繍作家) 参加費:¥4,200円 定員:5名(予約制) 縁にブランケットステッチとビーズをつけて仕上げたトナカイのハンカチ。クリスマスの数物にぴったり!	会場 E
		10:15AM~ 1:15PM 2:00PM~ 5:00PM	「トリ・スクール「ポップ・アート」」岡山 拓(美術家) 受講料:2,500円(1ドリンク付) 展覧会図録を参照しながら、ゆっくりお茶をしながら美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場 F
20	月	7:00PM~ 8:30PM	「落語を楽しむ ~入口遊びで、出口は文化~」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキスト付き) 声を出す、落語に学ぶ、落語を聴く。上方落語初心者のかた対象です。もっと落語鑑賞が面白くなりますよ。	会場 D
26	日	11:00AM~ 0:30PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子(料理研究家) 受講料:2000円(料理費込み) 定員:10名 「ネリkitchen」の豊村さんが、「根菜ときのこのシチュー」のつくり方をご紹介します。	会場 C
		11:30AM~1:00PM 2:00PM~3:30PM 5:00PM~6:30PM	「お正月の苔玉」まつもと(「三日豆」店主) 参加料:3,800円(材料費+お食事+お茶) お正月らしい植物を使って、シンプルで楚々とした苔玉を作ります。玄関や床の間に、お正月の小さなしつらえを♪	会場 B

A common cafe

大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F

☎06-6371-1800

<http://www.talkin-about.com/cafe/>

B 鳥かごキッチン

大阪市西区北堀江1-14-21

鳥かごビルディング2F

☎06-6535-0255

<http://www.torikago.biz/>

C 中崎町サロン文化大学

大阪市北区鶴野町

お問合せ・お申し込み:

<http://nakazakicho-u.blogspot.com/>

D フレイムハウス

大阪市中央区淡路町1-6-4

☎06-6226-0107

misalele39@gmail.com

<http://www.katana.cx/~fureimu/>

E タビエスタイル

大阪市中央区南船場4-4-17 B1

☎06-4963-7450

<http://www.5f.biglobe.ne.jp/~tapie/>

F 欧風食堂 ミリバール

大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.

☎06-6531-7811

<http://www.artniks.jp/millibar/>



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

4・11	土	10:30AM~ 12:00PM	「 脳のはたらきと記憶のしくみ 」受講料3,150円(全2回) 脳の記憶のしくみについて、1回目は現時点でわかっていることを解説。2回目はまだわかっていないことについて仮説を立てます。
-------------	---	---------------------	--

会場／大阪大学中之島センター 申し込み・問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224 <http://www.asahi-culture.com/nakanoshima/>

●大阪大学21世紀懷徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイ・スポット」で開催する講座です。

15	水	6:30PM~ 8:00PM	「 医療技術と患者 」山中浩司(大阪大学大学院人間科学研究科教授) 急速に進化する医療技術について、患者の立場からどんな風に付き合うべきかを考えてみましょう。
20	月	6:30PM~ 8:00PM	「 仕掛け 」が変える世の中の「 仕組み 」〜トイレのハエから安全な社会まで〜 松村真宏(大阪大学大学院経済学研究科准教授) 私たちは知らないうちに「仕掛け」から影響を受けている。公共空間の仕掛けのあり方について考えます。

会場／アイ・スポット 受講料／無料 定員／各回30名 申し込み・問い合わせ／アイ・スポット ☎06-4866-6803

●大阪大学×大阪ガス アカデミックッキング 「専門分野の講義」&「料理実習」で“学問するココロ”が実践的に身につきます。

2011 1/15	土	2:00PM~ 5:00PM	「 フードマイレージから考える、地球にやさしい食 」松村暢彦(大阪大学大学院工学研究科准教授) 親子でおいしく調理&試食しながら、フードマイレージ・クッキングに挑戦してみよう。
----------------------	---	-------------------	--

会場／大阪ガスクッキングスクール千里 受講料／1,500円 申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561
<http://www.og-cookingschool.com/>

●大阪・京都文化講座「大阪・京都の地宝と考古学」立命館大学文学部、立命館大阪オフィスとの共催の講座です。

7	火	2:00PM~ 3:40PM	「 大阪の飛鳥時代 」高橋照彦(大阪大学大学院文学研究科准教授) 聖徳太子創建とされる四天王寺、大化の改新に伴い造営された難波宮など考古資料から7世紀頃の大阪を探る。
14	火	2:00PM~ 3:40PM	「 京都の古代寺院と秦氏 」高 正龍(立命館大学文学部教授) 秦氏の造営した北野廃寺・広隆寺を中心として、京都の古代寺院について考える。

会場／立命館アカデミア@大阪 受講料／各2,000円 申し込み・問い合わせ／立命館大阪オフィス ☎06-6201-3610 http://www.ritsumei.jp/life-09/e09_10kyo_2.html



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線ななこ橋駅地下1階の[アートエリアB1]。12月のラインナップはこんな感じ。

8	水	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「 キャリア教育ってなに? 」定員:50名 12月のテーマは「就職」。今回は、最近大学等でよく耳にする「キャリア教育」について、 具体的にはどういうものであるのが望ましいのか考えます。
15	水	7:00PM~ 9:00PM	鉄道カフェ「 鉄カフェをみんなで考える20 」定員:30名 今回はシリーズのファイナルとして「実質的に来年以降の鉄カフェを考えてみよう」企画を実施します。 鉄道愛溢れる提案をお持ちの方はご参加ください。
16	木	7:00PM~ 9:00PM	マンガカフェ8「 2010年のマンガ界をふりかえるぞ 」定員:50名 京都国際マンガミュージアムが誇る“マンガ読み”の達人が、2010年のマンガ界を縦横に語り尽くします。 「今年一番のマンガ」を持参してね(2010年1月1日以降発売の単行本作品)。
17	金	7:00PM~ 9:00PM	オルタナティブカフェ「 労働と芸術のための時間・パート2 」定員:40名 大阪大学の吉澤弥生さんに、現代社会における「労働」と「芸術」に関する調査の報告を行っていただきます。 その後、ディスカッションを行います。
22	水	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「 社会人基礎力とは 」定員:50名 経産省でキャリア教育などに関わってきた守本憲弘さんに社会人基礎力について話題を提供していただき、 後半はみなさんと話し合います。

会場／アートエリアB1 参加費／すべて無料 開場／それぞれ開始30分前から 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

ヨーロッパ

プチ放浪記〈後編〉



デンマークのフーン島で2週間のホームステイを終えたあと、私はいよいよヨーロッパの一人旅に出た。予定は前半と同じく2週間。ただうろついても仕方がないので、好きな絵を見て歩くことにした。せっかくヨーロッパにきたのだから、本場で本物を観賞しようと思ったのだ。

最初に向かったのはノルウェーのオスロ。目当てはムンク。彼の作品には「叫び」「病める子」「吸血鬼」など、タイトルだけでも私好みの作品がずらりとある。

コペンハーゲンからオスロへは、夜行で行った。寝台車の切符が取れず、座席で寝苦しい夜を過ごしての到着だった。さっそくムンク美術館に行くと、その日は月曜日であいにく休館日。オスロはほかに見るものも少ないので、その日の夜行でアムステルダムに向かうつもりだった。せっかくなので、未練たらしぐラス扉に額を押しつけていると、休日当番らしい職員が出てきてくれた。

「日本からムンクを見に来たんですが、今日、帰らなければならないんです」

泣きそうな顔で訴えると、職員は親切にも私を中へ入れてくれ、貸し切りで観賞させてくれた。未練もたまには役に立つものだ。

しかし、「叫び」はここではなく、オスロ国立美術館にあるとのことだった。そっちも休みだったらまた泣き落しだと思ったが、幸いこちらは開いていた。「叫び」の実物は異様な迫力に満ち、思わず引き込まれた。が、よく観ると、画面の右下に油絵具の溶剤か何かが垂れた跡があった。明らかに完成してから汚れたものだ。せっかくの傑作なのに。しかし、こういう発見も、実物を間近に観てこそだろう。

オスロからの帰りはうまく寝台車が取れ、私はジャージに着替えてベッドにもぐりこんだ。このころになるとすっかり旅行慣れして、横になるとすぐ熟睡した。

アムステルダムに行く前に、私はコペンハーゲンで下りて、もう一日過ごすことにしていた。見忘れていたゴーギャンの作品を見るためだ。ゴーギャンの妻メットがデンマーク人で、夫が絵に熱中しはじめたあと、彼女は子どもを連れ



て実家にもどったので、デンマークにはゴーギャンの作品が多く残されているのだ。

到着予定は午前8時50分。ふと気づくと、電車がホームに停まっている。腕時計を見ると、8時53分。しまった、寝過ごした。いつ発車のベルがなるかしれないと、私は慌てて脱ぎ散らかした服をかき集め、トランクとリュックをひつつかんで、転げ落ちるように電車から飛び降りた。やれやれ間に合ったと思い、トイレで着替えて出てくると、まだ電車が停まっている。おかしいと思つてよく見ると、その電車はコペンハーゲン止まりだった。

訪ねたニューカールスベア美術館は、思った以上に充実したゴーギャンのコレクションがあり、半日観ても見飽きなかった。デンマーク国立美術館にも行ったが、ゴヤ、ブリューゲル、ピカソなど、思いがけず名作があつて、なかなか得をした気分だった。

その夜、3日連続の夜行でアムステルダムに向かった。目的はゴッホ美術館とアムステルダム国立美術館。前者では教科書などで見慣れた



ゴッホの作品を堪能し、後者ではレンブラントの「夜警」「自画像」「フェルメールの「青衣の女」」「ミルクを注ぐ女」などを心ゆくまで鑑賞した。美術好きにはたまらない贅沢だ。

翌日には、オランダ最大の国立公園デ・ホーヘ・フェルウェにあるクレラー・ミュージアム美術館に行った。ここは近代美術の蒐集家クレラー・ミュージアム夫人のコレクションを展示している美術館で、ゴッホの名作を多数所蔵していることでも有名だ。

アムステルダムから特急でアルンヘムという駅に行き、バスで美術館まで行った。

美術館では「夜のカフェテラス」や「糸杉」「アルルの跳ね橋」などを見て満足したが、帰りたいたいへんだった。せっかく公園に来たのだから歩こうと思って聞くと、アルンヘムとは別の駅が歩いて25分くらいのところにあると言われた。時刻表を見ると、30分後に特急があるので、ちょうどよいと、急ぎ足で歩きはじめた。ところがいくら歩いても公園の出口に着かない。25分してようやく出られたので、駅はすぐそこかと思つて聞くと、あと20分ほどかると言われた。目的の特急に乘らないと、アムステルダムで郵便局が閉まる時間に間に合わない。絶望しかけたが、たまたま通りがかった車に駅まで乗せてもらった。オランダ語しかわからない老夫婦だったが、よくヒッチハイクに応じてくれたものだ。

その夜はアムステルダム駅で変わったものを

食べた。フリカデル(棒状のハンバーグとソーセージの合いの子)、コロケテン(濃厚なシチューのフライ)、ナツシ(円盤状のカレー風味のご飯のフライ)。いずれも自動販売機で売られていて、温かくておいしかった。

翌日、TEE(ヨーロッパ横断鉄道)で最後の目的地パリに向かった。目的はルーブル美術館、印象派美術館、オランジュリー美術館(モネの「睡蓮」の連作だけを集めたところ)、パリ市立近代美術館などである。ほかにも凱旋門、ノートルダム寺院、ベルサイユ宮殿など、お決まりのコースも訪ねた。

セーヌ川クルーズに参加したとき、サン・ルイ島でUターンをした船が彎曲した橋桁にぶつかり、ガラス張りの天井がバリバリと壊れた。海外で観光客が事故に巻き込まれるニュースをたまに見るが、ひとつまちがえば、私も大怪我をしていただろう。事故は決して他人事ではないと肝を冷やした。

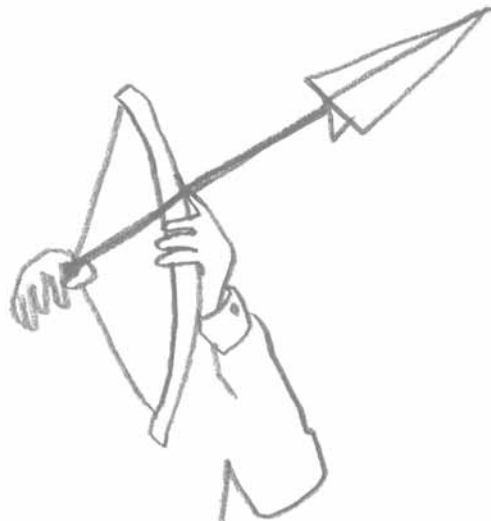
パリには1週間ほどいて、美術館には何度も通った。絵を見ている間はいいが、食事や買い物のときはしゃべらなければならない。パリは英語が通じないと聞いていたので、日本を出る前、唯一、「バレ・ヴー・ザングレ?」というフランス語を覚えていった。「あなたは英語をしゃべりますか」という意味だが、フランス語で聞くと、相手もフランス語で「モシヤモシヤ」と答える。で、結局、しゃべるのかどうかかわ

らない。それで英語で聞くことにしたが「ノー」が多いだけでなく、どうして私が英語を? というような冷やかな返事も多く、私は徐々にパリにいるのがいやになってきた。

日本を出発して28日目、いよいよ帰国の日になった。パリで疲れていたので、オルリー空港から無事に離陸したときは、出発のときと同じくらい心が浮き立った。

ところが、途中で乱気流に巻き込まれ、機体が続けざまに降下して乗客の悲鳴があがった。私は出発のときにした願掛けを思い出して、青くなった。もし飛行機が墜落するのなら、せめて帰りにと祈った件である。帰りでもやっぱりイヤだ。私は恐怖に震えながら、ふたたび神サマにお願した。

もし落ちるなら、せめて次のフライトで!



くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』(幻冬舎文庫)でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える

契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「読売新聞、文藝春秋SPECIAL、中央公論からほぼ同時に、老いや死の迎え方についての取材や寄稿を求められました。

そういうブームみたいなものがあるのでしょうか。私としては、得意分野なので大歓迎です」



赤穂義士を助けた堂島商人。

赤穂義士の中で2番目に年若(17歳)であつた矢頭右衛門七は堂島に縁がある。

元禄14年3月14日、江戸城松の廊下で播州赤穂城主・浅野内匠頭が旗本吉良上野介に斬りつけた。喧嘩両成敗とは成らず、浅野は即日切腹、お家は断絶。傷浅手の吉良にはお咎めなしの裁定。城代家老大石内蔵助はいつの日か主君の仇討ちをと極秘に決め、同志は江戸や大坂に潜伏する事になった。

矢頭長助・右衛門七親子も大石のお眼鏡に適い、大坂堂島で米問屋を営む野間屋久兵衛の長屋に潜伏。しかし矢頭家は軽輩で善いもない。長助が慣れぬ日雇い仕事で糊口を凌いでいたが体を壊して寝込んでしまい、右衛門七が付きっきりの看病。故に今日喰う米にも困るという有様。

背に腹は換えられぬ右衛門七は野間屋に「お金を……」お前が孝行息子なんは堂島中が知つてゐるこつちや。二両貸したる」「かたじけのうございます。質草に先祖代々伝わります腹巻(鎧の胴)を御預けします」「ボロボロやなあ……ハハハッ、こんなもん質草にもならんが、ヨッシャ預かるわ」



堂島3丁目、出入橋のたもとにある浄祐寺に矢頭長助と右衛門七親子の墓がある。

まもなく、父は看病の甲斐無く冥途黄泉の人となる。遺言が「いつの日にかある討ち入りには必ず、矢頭家の宝である腹巻を身に付けて吉良邸へ入れよ」すると、元禄15年10月末、「江戸へ参れ」と大石からの密書。「時至れりっ！……しまった、腹巻だ……。制限がない」と、野間屋にウソを吐いて腹巻を取り戻すと、借金も返さずに堂島の長屋を後にした。野間屋は「赤穂の小倅に騙された」と、会う人ごとに右衛門七の悪口。

そして迎えた12月14日。ご存じ義士の討ち入り。すぐに大坂にも伝わり大評判。でも野間屋は「赤穂の者でもエエのと悪いのがある」と右衛門七の悪口。ところへ飛脚が届けた小包。中を開けて驚いた。今をときめく大石の礼状と右衛門七の詫び状に金二十両。野間屋はその手紙を近所中に見せて「右衛門七はホンマはエエ奴でしてん」と詫びて回ったという。

実は、討ち入り直前に右衛門七は大石に事情を話した。そして三人が手紙を書き、二十両を添えて送ったのであった。真偽の程は不明だが、実に大坂商人らしい対応である。

きょくどう・なんかい
1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前(1989年)に三代目旭堂南海に弟子入り。1993年大阪より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花俠客伝」「天満宮参詣記」など。

また来てしまわ、 あー中之島。 バックキー インウエ

其の十三
**吉田拓郎と
京阪電車。**

吉田拓郎は広島やったな。でも高円寺という歌を思い出してしま。東京か、高円寺。行ったことはないけど高円寺という街は京阪沿線にあってもいいようなところのような気がするけど、実際はどうなんだろう。そう思ってインターネットやらグーグルマップやらで、高円寺周辺を見たり調べたりするのなんかいやだし実際にいくまでは思っままにしておこう。

京都大阪間の京阪沿線にある街ではなく、高円寺という街は出町柳よりも北にありそうな気がする。繁華街はなさそう、小室等な人がやっている食べ物屋や酒場はあるが高倉健な人がやっている店はなさそうだし、俺は住みにくい。熱燗よりも冷やした吟醸酒なんかが飲まれそうな街なのかもしれない。

今、俺の目の前には熱燗がある。横にはコッペがある。四条河原町裏の居酒屋「百練」恒例聞いて語る祭、今日は吉田拓郎の日だ。

「いつかは何処かへ落着こうと心の置場を捜すだけだどり着いたらいつも雨降りそんな事のくり返し」と、吉田拓郎が歌っている。この歌は「たどり着いたらいつも雨降り」だったな。それから「高円寺」がかった。ということは「元氣

です。」というアルバムやな。あー、いい。「一緒になれないからといって愛してなかったなんていうのはとても困るんだこっちを向いてくれ」と吉田拓郎の声が歌っている。フォークギターの音は京阪によく合っている。最近俺が様々な場面で京阪京阪と言っているの「京阪のなんかやっつてんの？」とよく聞かれるが、仕事とかなんかやっつたらあんまり言えるものではない。

そんなことよりも今の時代は京阪と吉田拓郎と銘柄のない熱燗を欲している。俺はそんな気になつてきているので拓郎とか熱燗とか叫ばず京阪と叫んでいる。京阪電車さんごめんなさい。でも俺は京阪が好きなんです。速いとか便利とかお洒落とか洪いとか格好いいとかではなく、なんだかやさしくてあたたかでシュツとしてスツツとしてるのにとっしりしている。何だかうまくは言えないけれど吉田拓郎と京阪は通じ合っています。

そういえば「唇をかみしめて」という歌があつたな。「ええかげんな奴じゃけほつといてくれんさい」が出だし。歌のサビの部分が引きつくる。「時が行くのもワカン位に 目まぐるしかったんじゃ人が好きやけネー 人が好きやけネー」何なんだろう吉田拓郎。時代は京阪と拓郎を求めている。

さあ、また乾いてきたら京阪に乗せてもらおう。そして普段降りないところに勇気を出して降りてみようか。

ばっつきー・いのうえ 京都・錦市場の漬物店「錦・高倉屋」店主にして日本初の酒場ライター「雑誌『Meets Regional』など名フレッシュを量産中」近著『京都店特撰』が絶賛発売中。

西梅田で見る、聞く、学ぶ ブリーゼブリーゼ12月の時間割

BREEZE BREEZE
<http://breeze-breeze.jp/>



LIGHT

■12月4日(土)
「1000000人のキャンドルナイト」
プレイベント
「キャンドルと音楽のマリアージュ
〜ビブラフォン(鉄琴)の調べ〜」
人気ショップより選りすぐったアロマキャンドルの灯りと、ジャズ&ポップスの無料ライブ。
1:45PM〜/3:15PM〜/4:45PM〜
(各回30分)
■12月9日(木)
「1000000人のキャンドルナイト
西梅田ナイト」
6:00PM〜10:00PM
(※館内消灯は8:00PM〜10:00PM)
◎プレイベントではホットワインの無料提供も！(限定200杯)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



PHOTO

■12月11日(土)〜26日(日)
「中里吉秀展 BACK TO THE FUTURE
むしろ、好き。」
大阪市街を眼下に見渡す33階タワーダイニングの
回廊を使った強くてカッコいい女性たちの写真展。



MUSIC

■12月5日(日)、18日(土)、19日(日)、
23日(祝)、24日(金)、25日(土)
「ウィークエンド コンサート」
1階メディアコートにて、無料でお楽しみいただけるライブコンサートを1日3回実施します。
1:45PM〜/3:15PM〜/4:45PM〜
(各回30分)
■12月5日(日)
「シャンソンジャズ〜ザザの世界〜」
■12月18日(土)
「ジャズ&ポップス
〜世界第2位のクロマチック
ハーモニカ「南里沙」の世界〜」
■12月19日(日)
「コンテンポラリースペシャルライブ
〜金谷こうすけの世界〜」
■12月23日(祝)
「ジャズ〜宮野英子の世界〜」
■12月24日(金)
「ジャズ&ゴスペル
〜 Gee Babyの世界〜」
■12月25日(土)
「ポップス&ゴスペル スペシャルライブ」

第17回

[ULTRA 2nd]@中川ビルディング

「天満橋なう。」を 発信する まちづくりカフェ。

昭和風情なタイルのビルから突き出したピースサインが目印。今年6月にオープンしたコーヒ&ダイナー[ULTRA 2nd]の仕掛け人は、リノベーションや水辺物件などひと味違う不動産を提案する末村巧さん。事務所の向かいに自分が通いたい店を作った。

「僕もたまにシフトに入ってますよ。たぶん、日本で一番おいしくエスプレッソを淹れる不動産屋ちゃうかな(笑)」
谷町9丁目の老舗珈琲焙煎店と一緒に開発した中煎りオリジナルブレンド。アボガドやエビをふんだんに使った大ぶりサンドイッチ。あんこ載せやカレー風味のトーストなんて変わり種も揃えたモーニング。メニューもいちいちクオリティが高いが、真骨頂は「天満橋をアツい街にしたい」というそのココロザシにある。

たとえば店に飾った天満橋界隈のジオラマ。水上タクシー、北浜テラス、OSAKA旅めがね…など、街や水辺を愉しくするいろんな活動が紹介されている。もちろん、末村さんや仲間が扱うリノベや水辺の不動産情報も。

「街づくりや建築に関わる人ってたくさんいるんですけど、オフィス街で働く一般のサラリーマンとの接点はなかなか持ちにくい。ここで両者が会って、情報交換したり、何かが起こる場になればいいなあ…」

ウルトラマン世代の末村さん。高度成長期には「超現実」だった夢や価値観が実現へと動く、いま分岐点にいるんじゃないかと感じている。街のあり方や暮らしも次のステージへ進む時。店名にはそんな思いが込められている。

新たな天満橋ムーブメント到来か。そう予感させるカフェの誕生である。



ボリューム感たっぷりのサンドイッチ類。手前はエビと卵、向こうがアボガドと厚切りベーコン。いずれも490円。



ウルトラ セカンド ULTRA 2nd

モーニングやランチ充実のオフィス街カフェながら、編み物好き集うニットカフェになったり、ボールドダンス&ライブを敢行したり、壁をギャラリー化したりと企画多々。中川ビルディングは昭和40年頃の魅惑の高度成長期物件。☎06-6949-8804 8:00AM~7:00PM(土曜~6:00PM) 日・祝休

「もうひとつの天満橋」と題したジオラマは末村さん作。「水都大阪2009」にお目見えした巨大アビルもいます。



ひと味違う不動産情報(上)、イベント等のチラシコレクション(下)など壁もフル活用。

トウミン月報

2010年12月1日発行

イタリア・フィレンツェにあるウフィツィ美術館の自画像コレクションと言え、美術好きの間では有名。富豪のレオポルド・

作家の自画像を集めた特別展

デ・メディチが、「芸術家のスタイル・芸術館・世界観・自意識などのすべてを内包するもの」として自画像を捉え収集を始めたコレクションで、その数は1700点以上。クオリティの高さから「美術家の殿堂」として各国の目をフィレンツェに向けさせ



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン《自画像》1655年頃
杉本博司《歪曲的宙感》2010年 ©Hiroshi Sugimoto, courtesy of Gallery Koyanagi
All works ©Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali

ウフィツィ美術館 自画像コレクション 巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010

期間／2011年2月20日(日)まで
開館時間／10:00AM～5:00PM(毎週金曜日は～7:00PM)
※入場は閉館の30分前まで 入場料／1,400円
休館日／月曜日、12/27～1/4、祝日の場合は翌日休

◎この展覧会のチケットを5組10名様にプレゼントします。
住所・氏名・電話番号・月刊島民へのメッセージ(今後してほしい特集など)を書いて、ハガキがファックスでお申し込み下さい。
宛先はP23に。※12月21日必着。当選は発送をもって代えさせていただきます。

る文化戦略の象徴ともなっている。その多くはウフィツィ美術館の秘密の通路「ヴァザリーの回廊」に保管され、普段は一般公開されていないという。
現在、中之島の国立国際美術館で開催中の特別展「ウフィツィ美術館 自画像コレクション」巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010では、それらのコレクションから約70点を厳選して紹介。レンブラント、シャガールほか、時代を超えたさまざまな画家たちが自らを見つめて出した答えが一堂に会する。また、草間彌生、杉本博司、横尾忠則ら現代日本を代表するアーティストが描いた自画像も登場する。(大迫力・本誌)

「人類の進歩と調和」を掲げ、1970年に大阪で開催された日本万国博覧会。世界中から6421万人余りが集った日本史上最大の万博がもたらした成果を検証するシンポジウムが開催される。
大阪大学21世紀懐徳堂が主催する「大阪万博40周年の検証」では、第1部にSF作家の小松左京氏ら3人の映像インタビューを上映。また第2部のタウンホールミーティング

大阪万博から40周年 進歩と調和を問う

グでは、建築ジャーナリストの磯達雄氏、文化人類学者の竹村真一氏、歌手で万博マニアの嘉門達夫氏ら多彩なパネリストを迎えたトークセッションを行なう。トークには鷗田清一総長、橋爪節也教授など大阪大学からのパネリストも多数。40年という歳月が流れる間に、はたして大阪の街は進歩し、調和して大きく育ったのかをさまざまな視点から考察する。(大迫力・本誌)

特集でも紹介した「OSAKA光のルネサンス2010」の運動企画として行われる「中之島アイスクリームリンク」は、その名のとおり、オフィス街の真中にアイスクリーム場がオープンするという斬新なイベント。大人から子供まで、さらにナイトスケートも楽しめる期間限定の屋外ス



中之島にスケートリンクが登場!

ケートリンクが中之島にオープンするのだ。光のルネサンスに運動したものであるため、照明など「光」による演出も工夫されており、幻想的な雰囲気の中でスケートが楽しめる。金・土曜は夜9時までオープンしているため、(ちょっと寒いかもしれないけれど)会社帰りに寄ってみると、いつもとは違う中之島の楽しみ方ができそうだ。(大迫力・本誌)

中之島アイスクリームリンク

期間／2010年12月2日(木)～2011年2月27日(日)
営業時間／12:00PM～8:00PM(金・土曜～9:00PM)
※入場受付はそれぞれ1時間前まで。12月10日(金)～25日(土)はクリスマススペシャルウィークとして10:00PMまで営業。
料金／大人(高校生以上)1,500円 子供(中学生以下)1,000円
貸し靴料300円 観覧券500円
※未就学児は保護者の同伴が必要。保護者1名につき未就学児1名は無料。
お問い合わせ／☎06-7732-8888
(キョードーインフォメーション)

大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム

「街育てvol.3 大阪万博40周年の検証」
日時／12月12日(日) 2:00PM～5:30PM
会場／毎日新聞社 大阪本社 オーバルホール
定員／350名(無料・要申し込み)
申し込み方法／住所・氏名・電話番号を明記し、info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jpまで。
お問い合わせ／大阪大学21世紀懐徳堂
☎06-6850-6443
http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp





緑のトンネルの中に見えてくる二の鳥居。訪れる人は多くなく、静か。時折、すぐ隣にある中学校のチャイムや生徒の声が聞こえてくるくらいだ。



継体天皇が即位した楠葉宮があったとされる場所。今は小さな建物があるのみ。



楠葉宮の伝承地へと続く脇道。太い木も多くまるで山の中のような感じさえる。



こちらが三の鳥居。木製の瓦葺きとは珍しい。その奥に見えるのが社殿。

新しくなった駅前で、 この街の由来に出会う。

樟葉駅の改札を出てすぐにある、KUZUHA MALL前の広場はいつも楽しい雰囲気包まれている。ショッピングついでにベンチに腰掛けて話込む奥様方や、ベビーカーを押すお母さんたち、近くの学校に通っている高校生や大学生も多い。2005年にリニューアルオープンした、ミラーガラスがまぶしいKUZUHA MALLの外観や、タワーマンションが建つせいもあるだろうか、地元の人や京阪沿線に住む人には新しく清潔感のある駅前という風に印象づけられているようだ。



KUZUHA MALLとその前の広場。2005年にリニューアルオープンし、多くの地元客で賑わう。

気にする人は多くないが、その駅前広場の真ん中ほどに、石造りのモニュメントがある。その記述によれば、樟葉は古くから交通の要衝として開けた土地であり、『古事記』や『日本書紀』



にも地名の由来が記されているそうだ。新しくなった駅前でも目にする実は樟葉はこうした歴史的な逸話の多い場所でもある。

今、暮らしている街に 何があつたかを知ること。

樟葉駅からバスで10分ほどのところに、1200年以上の歴史を持つという交野天神社がある。住宅街の中、そこだけはたくさん木が生い茂る雑木林になっていて、ちよつと秘密めいて

入口にあたる一の鳥居をくぐると、緑に覆われたトンネルのような道が続いている。木漏れ日が射し、木々の生気に包まれて、近頃流行のパワースポットのような雰囲気がある。しばらく歩くと二の鳥居があり、そしてその先に三の鳥居と社殿が見えてくる。由緒書きによれば、延暦6年(787)、恒武天皇がこの地に父である光仁天皇を「天神」として祀ったのが起源と言われている。屋根だけが覗いている本殿と八幡神社はいずれも重要文化財である。

その脇に小さな脇道がある。その道を行くと短い石段があり、「此附近継

體天皇楠葉宮址」と書いた小さな碑が建っている。なんとここはその昔、継體天皇が即位した場所であるらしい。継體天皇と言え、北陸(近江説もあり)で暮らしていたところを呼び寄せられ、血縁が薄いながらも58歳で即位したという逸話を持つ異色の人物。恒武天皇がこの場所を選んだのも、そうした伝説があつたからだと言われている。まさかそんな歴史ロマンあふれる場所があるとは、ほんの数キロしか離れていない駅前の風景からは想像できない。



交野天神社の本殿。大きい方が本殿で、その隣に八幡神社がある。朱塗りの建築が目鮮やか。

こうした歴史を知れることは、そこで暮らす人たちに安心感のようなものをもたらししてくれるのではないだろうか。便利で快適な生活の中にも、過去の多くの人が積み重ねてきた地層のような時間の連なりがあることを歴史は教えてくれる。

取材文/大迫力 砂田祥平(共に本誌)

わたしと樟葉の物語。
樟葉在住歴7年/会社員
八川寿明さん(30)



就職をきっかけに移ってきて以来、居心地が良くてずっと樟葉に住んでいます。

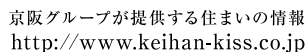
樟葉駅から徒歩10分のマンションに愛犬・有ちゃんと暮らす八川さん。樟葉の一番気に入っている部分は大阪や京都へのアクセスが良いところ。「特に大阪市内に出る時は、地下鉄の各路線にすぐ乗り換えできるから便利。どこへでも行けますね」と話す。また、天気の良い休日にはKUZUHA MALL内のテラス席のあるカフェや河川敷に行ったりと、愛犬家にとっては快適な街であるようだ。

楠葉宮のことは以前広報誌で読んだことがあるそうで、「昔から人が住んでいる街は良い街なのかなと八川さん。「やっぱり人とも暮らしたい」と苦笑しながらも、愛してやまない有ちゃんと暮らす樟葉の日々はとても幸せそうだ。

マイラブ。

マイラウ。

A photograph of a park area with trees and a building in the background. The scene is outdoors with a clear blue sky and some clouds. There are several trees with green and yellowing leaves. In the background, there is a building with a red roof and a white wall. A paved path leads through the park.



生活環境を「トータルに考えた街づくり」。

枚方市と八幡市にまたがる約5500戸の「くずはローズタウン」。1968(昭和43)年、日本初の官民一体型のニュータウンとして開発されました。

街のキャッチフレーズである、“花と緑と太陽の街”にふさわしく、街路樹や公園を配置した理想的な街並みが形成されています。

1972(昭和47)年には、花と緑と太陽のモールを放射状に配した「くずはモール街」がオープン。百貨店やスーパー、銀行などが集う、沿線を代表する複合ショッピング施設として注目を集めました。また、スポーツや文化を通じて豊かな暮らしを育む「京阪くずは体育文化センター」を開設するなど、街や家をつくるだけでなく生活環境をトータルに考えた理想的な街づくりだったのです。

京阪100年の歴史を語る上で決してはざすことのできない「樟葉」。今では当たり前前の自動改札機が京阪電車では「樟葉」駅が最初であることをご存知のあなたはかなりの京阪ツウかもしれません。



KUZUHA MALL

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
書店：ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／福家書店 淀屋橋店／天牛堺書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／紀伊國屋書店 京橋店／隆祥館書店／なんば書店カルチャーコーナー
公共施設・大学関連施設ほか：大阪府中央公会堂／府立中之島図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪市立中央図書館／大阪歴史博物館／大阪城天守閣／大阪狭山市立図書館／奈良県立図書館情報館／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪企業家ミュージアム／味の素 食のライブラリー／朝日カルチャーセンター／大阪大学中之島センター／大阪大学本部／大阪大学21世紀記念館／摂南大学地域連携センター／慶應大阪リバーサイドキャンパス／追手門学院 大阪城スクエア／追手門学院 大手前センター／関西学院大学大阪梅田キャンパス／専門学校中之島美術学院／大阪工業技術専門学校／ろうきんギャラリー心斎橋／大阪倶楽部／中央電気倶楽部／芝川ビル／N4タワーマンションパビリオン／ホテルNCB／ABC朝日放送／大阪フィルハーモニー会館
店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可／ラ・クッカーニャ／アリアスカ マーブルトレ MANGUEIRA／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー／黒門さかえ／花かつ／ティーハウスムジカ／MJB 珈琲／平岡珈琲店／喫茶SAWA／アンドール本町本店／あじさい／Celo Bookshop and café／EXPO CAFE／Loop A／喫茶カウンター／BAR THE TIME 天神／タバーン・シンボン／バスターレー／LES LESTON／大西洋服店／上町貸自転車／ザ・メロディ／カセッタ／セブンイレブン大阪証券取引所店／吉田理容所／たまがわ鍼灸整骨院／宮崎歯科／心斎橋山田兄弟歯科／東郷歯科医院／ネールサロンスワン

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしております。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。郵便振替(口座番号：00990-5-299267)または現金書留にて下記の宛先にお送りください。[料金] 3ヶ月/600円(2011年3月号まで)

次号予告 レンズの向こうの中之島。

カメラを持って歩くのが楽しい中之島。だが、何を撮るかは人それぞれ。
カメラマンの数だけ、ぜんぜん違う中之島の表情がある。

●『月刊島民』vol.30は2011年1月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)

編集・発行／月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力(編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)

デザイン／山崎慎太郎

表紙イラスト／奈路道程

印刷／佐川印刷株式会社